

# 養殖瓦版

平成24年12月10日発行  
(第13号)

発行：千葉県水産総合研究センター・生産技術研究室  
千葉県農林水産技術会議  
〒295-0024 千葉県南房総市千倉町平磯 2492  
電話：0470-43-1111 ファクス：0470-43-1114  
eメール：chiba-pfrc@mz.pref.chiba.lg.jp

## 第522回技術情報セミナー開催される！！

セミナーは10月29日、三会堂ビル（東京都）で開催され、全国から約20名程度の参加者があり、当センターからも参加いたしましたので、その概要について、今後の経営方針の参考に報告をいたします。

今回のテーマは「魚介類の給餌養殖技術の最新動向」（講師：東京海洋大学海洋生物資源学科 佐藤秀一教授）で、世界の養殖魚の生産状況、飼料生産状況、飼料に関する研究現況等について、次のように説明がありました。

### （世界の養殖魚の生産状況）

甲殻類を含めた生産量は、年々増加傾向にあり、特に給餌養殖の生産量は、平成9年の565万トンから19年の1,660万トンに、更に8年後の32年には4,560万トンに増産されることが予測されます。特に著しい伸びを見せている国は中国で、人口の急増が主な原因と思われます。

### （飼料の生産状況）

養殖魚の生産量の増加に伴い、飼料の生産量も増加する必要がありますが、雑魚等原料魚に対する資源保護や天然魚を使用しての生産に対する問題意識の芽生えにより増産することが難しい状況となっています。また、世界の飼料価格は中国の魚粉使用量の増加により高価になっており、日本が輸入した魚粉価格は、18年の100円/kgから22年には150円/kgと大幅に上昇しました。

### （飼料に含まれる魚粉量の検討）

このような状況から低・無魚粉飼料の研究が進められています。代替タンパク質原料としては大豆油粕等があり、マダイ・ブリでは魚が活発に摂餌する場合は、魚粉配合率を30%まで低減しても飼育成績に影響は無く、20%では成績が劣るが、タウリンを魚粉飼料と同量まで添加することにより改善されとの結果がでています。また、低魚粉飼料を給餌することにより、環境へのリン負荷が軽減されることも明らかになりました。

### （今後の研究の方向）

更なる性能の良い低魚粉飼料の開発、低水温時の摂餌の活性化、植物性飼料原料に含まれる栄養阻害物質の不活性化の検討、使用制限が軽減されたチキンミール<sup>①</sup>、フェザーミール<sup>②</sup>、血粉等動物性飼料原料の利用を進めていくべきでしょう。

注 ①チキンミール：鶏肉の残渣 ②フェザーミール：鶏肉の羽の残渣

## 養殖魚に関する放射能関連のニュース

養殖業で使用する飼料について、放射能セシウムの暫定許容量が”1キログラムあたり40ベクレル”と定められましたので、ご注意ください。

（問い合わせ先：千葉県農林水産部水産局漁業資源課 tel 043-223-3037）



経営面で、日々厳しさが増す昨今ですが、食糧生産者としての自負を持ち、この局面を乗り越えましょう！！

裏面があります。一読下さい。

## 養殖業者の皆様へ

食品衛生法上の基準値を超える養殖魚を生産しないよう、以下に気をつけて下さい。

- 飼料の放射性セシウムの暫定許容値は、食品の基準値を超えない養殖魚を生産するために、どのような飼料を給与すれば良いのかを判断する目安です。
- 暫定許容値を下回る飼料を使いましょう。
- 飼料を購入したり、譲り受ける場合には、原料管理も含め適切に製造管理されたものであることを、飼料販売業者に確認しましょう。
- 自ら飼料を生産する場合は、放射性セシウムの状況について、各県にお問い合わせください。  
〔 水産物の検査状況については、東日本太平洋側水域を中心に、水産物の放射性物質検査結果が農林水産省のホームページでも公開されています。 〕
- 魚等の残渣・廃棄物又はこれを原料とする堆肥を販売・譲渡する場合は、生産状況の情報を適切に提供しましょう。

※水産物の放射性物質調査の結果について

(<http://www.jfa.maff.go.jp/j/sigen/housyaseibussitutyousakekka/index.html>)

<飼料の放射性セシウムの暫定許容値>

養殖魚用飼料（観賞魚用を除く） 1キログラムあたり40ベクレル

このことに関するお問い合わせは  
千葉県農林水産部水産局漁業資源課  
043-223-3037